

# TOPPAN

## 環境報告書 2012

トッパンコンテナ(株)埼玉工場の環境報告書



トッパンコンテナ株式会社  
TOPPAN CONTAINERS CO.,LTD.

## 目次

ごあいさつ	02
<b>基本理念</b>	
トッパンの社会的責任	03
トッパングループ地球環境宣言	03
トッパンコンテナ(株)環境方針	04

## 環境マネジメント

環境マネジメントシステムについて	05
環境マネジメント推進体制	05
事業活動におけるマテリアルフロー	06
2011年度の目的目標と達成状況	07
環境監査	07
マネジメントレビュー	08
環境コンプライアンスへの対応	08
環境教育	08

## 環境保全活動

汚染防止と化学物質の管理	09
大気汚染予防	
化学物質の管理	
騒音防止	
振動防止	
放射能測定	
水質汚染予防	
地球温暖化防止と省エネルギー	10
廃棄物削減とリサイクル	10
オフィスエコガード活動	11
生物多様性保全	11

## 環境コミュニケーション

社会・人とのコミュニケーション	12
-----------------	----

編集後記	12
------	----

### 編集方針

埼玉工場の「環境報告書」も2004年の初版発行から今年で9年版目になりました。

トッパンコンテナ(株)埼玉工場の環境保全活動に関心をお持ちの方や関係のある方に、考え方と取組内容をご理解頂いて、対話の出来る情報公開に努めました。

### 報告対象期間

2012年度(2011年4月～2012年3月)の実績を中心にして、ご報告をさせていただきます。

### 報告対象範囲

トッパンコンテナ(株)埼玉工場の事業に係る環境保全活動、環境コミュニケーションなどの取組みについて報告をしています。

### 発行年月

前回：2011年8月

今回：2012年8月

次回：2013年8月(予定)

### 発行責任部署及び連絡先

トッパンコンテナ株式会社 技術部 技術課

## 会社概要

社名	トッパンコンテナ株式会社 TOPPAN CONTAINERS CO., LTD.
本社所在地	〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1 1952年(昭和27年)10月1日
代表取締役	山田恭司
資本金	10億円
従業員数	444名

## 会社沿革

1952年	9月	東京都大田区東六郷に資本金5千万円を以て、凸版紙器工業株式会社を設立
1962年	9月	埼玉県川口市(旧鳩ヶ谷市)に埼玉工場を新設
1967年	3月	本社を東京都台東区に移転
1970年	1月	商号を凸版段ボール株式会社に変更
1971年	6月	栃木県佐野市に佐野工場を新設
	7月	資本金を1億円に増資
1974年	7月	資本金を2億円に増資
1975年	7月	資本金を4億円に増資
	10月	宮城県桃生町に宮城工場を新設
1991年	7月	トッパンコンテナ株式会社に変更
2004年	4月	資本金を10億円に増資
2005年	4月	三栄紙器株式会社を合併し、熊谷事業所を開業
	7月	凸版運輸加工株式会社を合併
2006年	3月	埼玉工場に総物流棟を新設
2009年	6月	ISO 9001 認証取得

## 環境活動のあゆみ

2001年	3月	営業部門 ISO 14001 認証取得
2003年	6月	ソニーグリーンパートナー環境品質認定制度認証取得
2004年	4月	埼玉工場及び宮城工場 ISO 14001 認証取得
	7月	サイトレポート初版発行(毎年発行)
	8月	第1回環境保全活動報告会開催(毎年開催)
	11月	埼玉県中央広域行政推進協議会の研修会を開催
2005年	4月	佐野工場 ISO 14001 認証取得
2006年	4月	ISO 14001:2004年度版に移行
		VOC排ガス処理施設の稼働開始
2007年	4月	ISO 14001 更新
	8月	ボイラー燃料等を都市ガスに変更
2010年	4月	ISO 14001 更新
2012年	6月	工場排水の処理水河川放流を下水道排水に切替

## ISO 14001 認証 (JQA 登録証)



## ごあいさつ

トッパンコンテナー株式会社は、トッパングループの一員として「トッパングループ地球環境宣言」に基づいて、積極的に環境活動を推進しています。

埼玉工場はトッパンコンテナー株式会社の基幹工場として、環境保全に取り組みながら地域社会に信頼される工場を目指しております。

グラビア印刷機で使われるインキの水溶性化、ボイラー燃料の灯油から都市ガス化、気化した有機溶剤を燃焼させるVOC排ガス燃焼装置の設置など地球温暖化防止のための継続的対策を図っております。

電力不足の懸念から今年度は一昨年の10%削減を目標に、物流棟の水銀灯照明のLED化、照明の削減、空調の停止・温度管理徹底などの使用電力削減活動を行って、CO<sub>2</sub>排出量を抑制しています。

地域社会とのコミュニケーションのひとつとして、埼玉工場内外周の清掃活動なども実施しています。

埼玉工場の環境報告書は今年9回目となりますが、私どもの環境に対する考え方や取り組みを本報告書でご理解頂きたい、お願い申し上げます。

また、今後の環境に対する取り組みの為に、ご意見をお聞かせ頂ければ幸いです。

2012年 8月

トッパンコンテナー株式会社  
埼玉工場 工場長

鈴木 和一郎



### トッパンコンテナー株式会社 埼玉工場

住 所： 〒334-0012 埼玉県川口市八幡木2丁目32番1号  
操 業： 1962年(昭和37年)  
敷地面積： 32,992㎡(9,980坪)  
建物面積： 21,604㎡(6,535坪)  
従業員数： 191名[2010年3月末]  
製造品目： 段ボール 及び 段ボール箱



### トッパンコンテナー株式会社 本社

住 所： 〒110-8560 東京都台東区台東1丁目5番1号

### トッパンコンテナー株式会社 佐野工場

住 所： 〒327-0816 栃木県佐野市栄町17番2号

### トッパンコンテナー株式会社 宮城工場

住 所： 〒986-0314 宮城県石巻市桃生町寺崎字新町88番

### トッパンコンテナー株式会社 熊谷事業所

住 所： 〒360-0012 埼玉県熊谷市上之3450番

本社



## 基本理念

### トッパンの社会的責任

トッパンの企業像は「企業理念」「経営信条」「行動指針」の3つで構成され、企業活動を行ううえでの価値観や規範・指針のすべてが含まれています。

この企業像を実現することこそがトッパンの社会的責任にほかなりませんし、トッパンコンテナーの全社員も現実すべく行動しております。

#### 企業理念

私たちは  
常にお客様の信頼にこたえ  
彩の知と技をもとに  
こころをこめた作品を創りだし  
情報・文化の担い手として  
ふれあい豊かなくらしに貢献します

#### 経営信条

私たちは  
誠意・熱意・創意にもとづく活動を通じて  
お客さまとの信頼を築きます  
私たちは  
グローバルな視点にたつて  
独創性に富むマーケティングと技術開発を行い  
事業の刷新に努めます  
私たちは  
社会的責任を認識し  
地球環境との調和をめざすとともに  
公正で開かれた企業活動を行います  
私たちは  
ひとりひとりの能力とチームワークを最大限に活かし  
働きがいのある企業風土をつくります  
私たちは  
新たな可能性を拓くことにより  
企業の価値を高め  
トッパングループの持続的な発展を図ります

#### 行動指針

##### 第1章 基本原則

1. 基本的人権を尊重する
2. 公序良俗に反しない
3. 法と倫理を遵守する
4. 公正な事業活動を行う
5. 品質の向上に努める
6. 情報の管理・開示を適切に行う
7. 環境と安全に配慮する

##### 第2章 具体的な行動指針

- 第1節 お客さまとの信頼を築くために
- 第2節 事業の刷新をするために
- 第3節 社会的責任を果たすために
- 第4節 働きがいのある企業風土を実現するために
- 第5節 トッパングループの発展のために

### トッパングループ地球環境宣言

制定して活動を推進してきましたが、2009年に持続可能な社会の実現を目指して新たにトッパングループ全体の活動基本理念である「トッパングループ地球環境宣言」へと改め、積極的に環境保全への取り組みを行っています。

#### トッパングループ地球環境宣言

私たちは責任ある国際社会の一員として、  
トッパングループで働く者全員が、  
未来を見据えた地球環境の保全に配慮した企業活動を通じて、  
持続可能な社会の実現に努めます。

- 基本方針
1. 私たちは、環境に関する全ての法令及び社内規定を遵守します。
  2. 私たちは、地球の未来のために、限りある資源の有効活用と、あらゆる環境負荷の低減に努めます。
  3. 私たちは、先見性をもって環境に配慮した製品の開発と普及を促進し、お客さまの環境活動に貢献します。
  4. 私たちは、社内外の広範な人びとと環境に関するコミュニケーションの活性化を図り、相互理解に努めます。
  5. 私たちは、国際社会における企業活動においても、環境保全に積極的に取り組みます。

## 基本理念

### 環境方針

トッパンコンテナーでは、環境に対する基本理念である「トッパングループ地球環境宣言」の基に環境方針を定めて環境保全活動を推進しています。

### 環境方針

トッパンコンテナー株式会社は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、環境に対する基本理念である「トッパングループ地球環境宣言」に従い、未来を見据えた地球環境の保全に配慮した、段ボール・段ボール製包装材料の箱の製造などの事業活動を行うため、下記環境保全活動を推進します。

1. 事業活動、製品及びサービスが環境に与える影響を意識し、技術的及び経済的に可能な範囲で全従業員が環境保全活動に積極的に取り組みます。
2. 当社の環境側面に関わる環境関連法令・条例・協定及びその他の要求事項を順守し、可能な限り自主管理基準を定め環境汚染の予防に努めます。
3. 生物多様性の保全・環境への影響を常に配慮して、事業活動に関わる環境側面のうち、次の項目を重点テーマとして推進します。
  - 1) 電力、燃料消費量の抑制を中心とした省エネルギー
  - 2) 紙屑、廃プラスチック等廃棄物の削減とリサイクル
  - 3) 環境管理物質等、環境負荷の著しい化学物質の削減と適正管理
  - 4) 排水の環境負荷低減と自主管理基準の順守
4. 環境目的・目標を定め、定期的に見直すことにより継続的改善を図ります。
5. 地域社会における環境活動への支援、協力や情報提供を積極的に行い、地域社会との共生を図ります。
6. この環境方針は当社従業員及び当社のために働く全ての人に周知するとともに、環境意識の向上を図るために環境教育を推進します。  
また、外部の人々にも適切な情報開示に努めます。

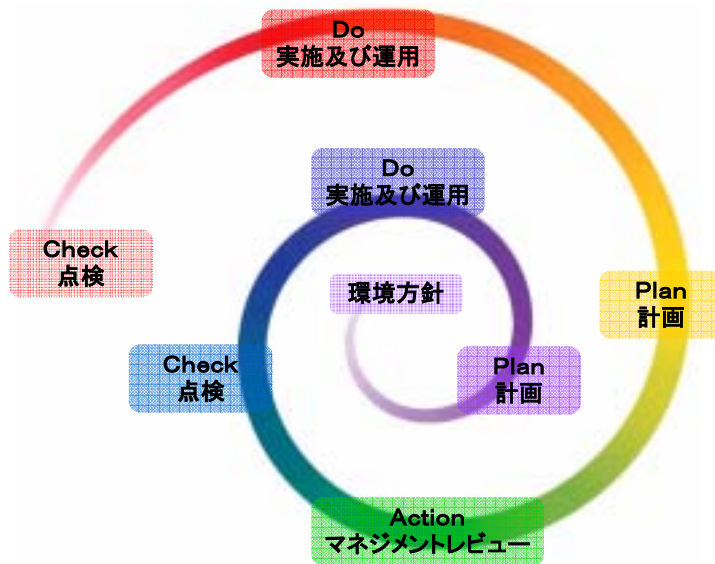
2011年10月 1日  
トッパンコンテナー株式会社

代表取締役社長 **山田 恭司**

# 環境マネジメントシステム

## 環境マネジメントシステムの特徴

埼玉工場は2004年4月にISO 14001の認証を取得し、2012年4月に定期認証を受けております。環境方針に基づき、エネルギー使用量や廃棄物量などの主要な環境負荷項目について、工場の全部門が環境実行計画を作成し、目標達成に向けた活動を推進しています。エコガード推進委員会にて活動進捗の確認・検討が行われ、課題が生じたときは速やかに是正が図られるようになっております。また、システムが有効に機能しているかを内部環境監査や凸版印刷エコロジーセンターの社内監査で確認し、これらの情報を経営者が評価・検証しています。このようにPDCAサイクルを廻して、環境負荷低減の継続的改善につなげてスパイラルアップしています。



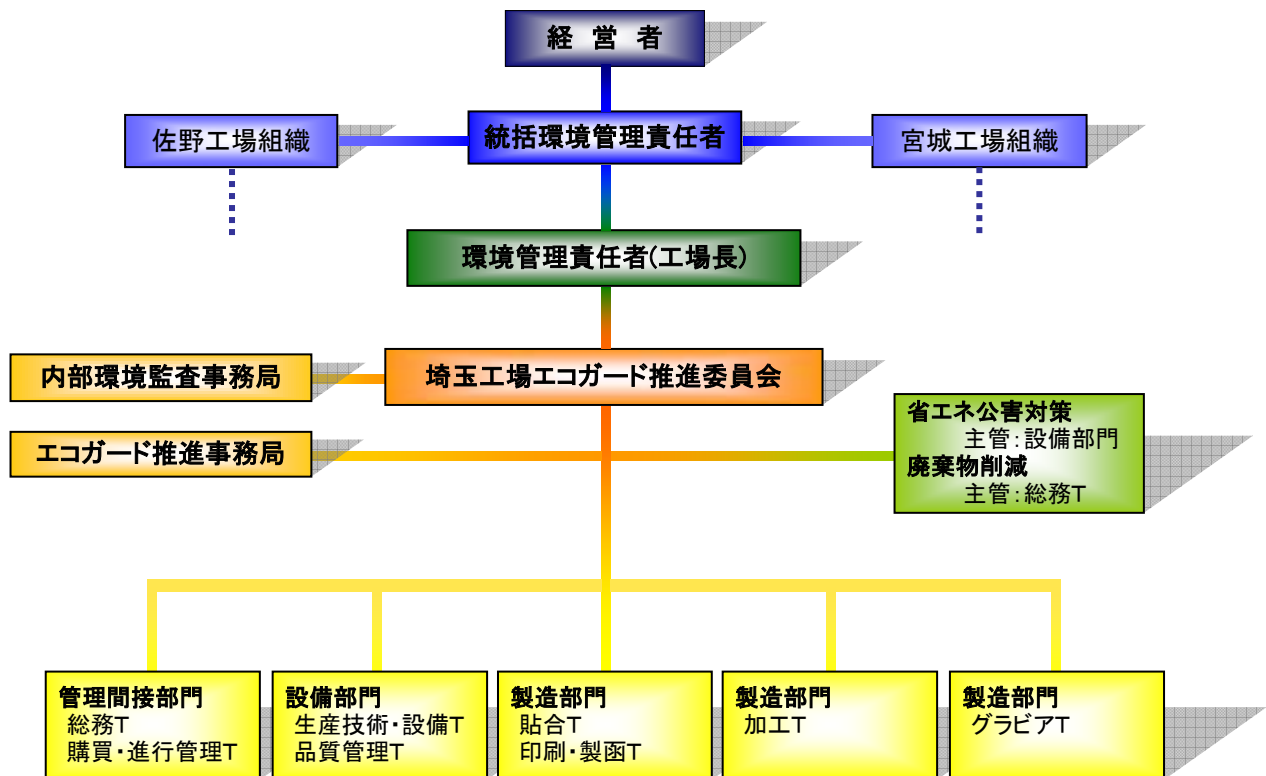
**Plan 計画**  
 環境側面の抽出  
 法的要求事項と適用方法  
 目的・目標の決定 及び 実施計画

**Do 実施 及び 運用**  
 資源・役割・責任・権限の決定  
 力量・教育訓練・自覚  
 コミュニケーション  
 運用管理  
 緊急事態への準備・対応

**Check 監視 及び 測定**  
 遵守評価  
 不適合・是正・予防処置  
 記録管理  
 システム・社内・内部監査

**Action マネジメントレビュー**  
 経営者によるシステムの評価と改善指示

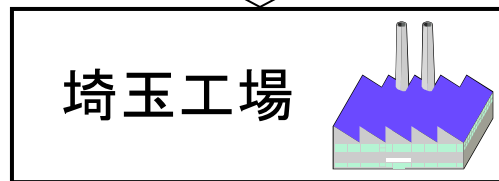
## 環境マネジメントシステム推進体制



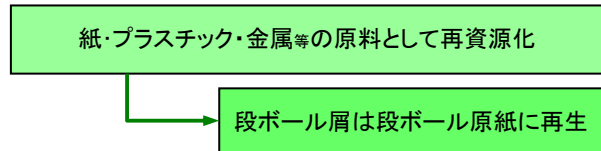
# 環境マネジメント活動

## 事業活動に伴うマテリアルフロー

INPUT 生産に必要な全ての物							
エネルギー		用 水		補 助 材 料		原 材 料	
電 力	675万kwh	上水	8,026m <sup>3</sup>	パレット	37トン	原紙・刷本	52,920トン
都市ガス	180万m <sup>3</sup>	工業用水	36,552m <sup>3</sup>	ストレッチフィルム・フロレン・PPバンド*	26トン	インキ	499トン
L P G	21,585kg			テープ類	37トン	溶 剤	257トン
軽 油	20,670ℓ			その他	18トン	貼 合 糊	870トン
						接 着 剤	21トン



OUTPUT 生産で排出された全ての物		
廃 棄 物	廃棄物総量	8,607トン
	再資源化量	8365トン
	減量化量	233トン
	最終処分量	9トン
排 水	排水量	23,730m <sup>3</sup>
大 気 放 出	CO <sub>2</sub>	6,983トン
	VOC	24.0トン
	NO <sub>x</sub>	3.8トン



### トッパン環境配慮型製品

トッパンの環境配慮型製品は企画商品等に対し3項目の環境評価をおこなって、トッパン基準をクリアした商品が環境配慮型製品です。環境配慮型製品には右のマーク付けて、お客様にご紹介しております。



### 段ボール原紙

段ボール原紙は原料の約90%は段ボール工場から出た段ボール屑や市場等から回収された段ボールを原料に作られており、リサイクルの優等生です。

### 段ボール屑



### 段ボール原紙



段ボール屑は製紙メーカーに送られ、段ボール原紙として再生されています。

## 環境マネジメント活動

### 2011年度の目的・目標と達成状況

2011年度の環境に対する目標を9項目の目標設定し、埼玉工場の従業員が一丸となって環境活動を進めてまいりました結果を報告させていただきます。

2011年度の環境目標は震災後の生産量減少の影響で、殆どの原単位(段ボール1000㎡作るのに対する数値)が前年より悪化してしまいました。

工場から排出される産業廃棄物・CO<sub>2</sub>・製造工程で出たロスなどの総量は前年の総量よりも減少しています。特定化学物質の使用量を削減すべく、ご使用のお客様に継続的にインキタイプの変更をお願いする活動もこなっております。

大項目	環境目的	環境目標	目標値	実績	評価
地球温暖化防止	エネルギーの削減 [CO <sub>2</sub> 排出量の削減]	生産量原単位を前年実績1%削減の 1.85GJ/千㎡とする	1.85 GJ/千㎡	1.86 GJ/千㎡	B
資源循環	廃棄物総量の削減	2001年度実績130.8kg/千㎡の 109.9kg/千㎡(84.0%)に削減する	109.9 kg/千㎡	110.1 kg/千㎡	B
	古紙排出量の削減	2001年度実績の120.4kg/千㎡を基準に、 103.5kg/千㎡(86.0%)に削減する	103.5 kg/千㎡	106.4 kg/千㎡	B
	廃棄物非再資源化量の削減	2010年度実績0.84kg/千㎡を目標とする	0.84 kg/千㎡	0.94 kg/千㎡	C
資源有効利用	コピー用紙の削減	2010年度実績158kg/つきを目標とする	158 kg/千㎡	158 kg/月	A
	グリーン購買の推進	グリーン調達適合品の購入金額比率 97%以上を維持する	97% 以上	98.4%	A
特定化学物質	トルエンの削減	前年使用量以内を維持する	0.06 ton以下	0.08 ton	C
水質	水質汚濁関係法規制値の遵守	放流水の自主管理基準値からの逸脱0件	0件	0件	A
環境マネジメント	コミュニケーション	地域の方々との交流・工場見学会の開催、 地域イベントへの参加・サイトレポート発行	各1回	各1回	A

評価： A 目標値の100%以上  
B 目標値の95～100%未満  
C 目標値の95未満

### 環境監査

#### 環境監査

毎年、内部監査員による内部環境監査と凸版印刷エコロジーセンターによる社内環境監査で、環境マネジメントシステムの運用状況や環境関連法規制の遵守状況の確認をおこなっています。

#### 外部審査

2004年にISO14001の認証を取得して以来、審査登録機関による3年毎の更新審査及び毎年の定期審査を受審しています。

2012年5月に定期審査を受け、ISO14001の認証の継続となっております。



## 環境マネジメント活動

### 環境マネジメントレビュー

内部環境監査・社内(凸版印刷エコロジーセンター)環境監査の結果、法令・法規制値の遵守状況、目標の達成状況、内部・外部情報などを報告して、経営者の評価を受けております。  
継続的改善が必要な場合には、マネジメントシステム・環境方針・目的目標の見直しを行っております。

### 環境コンプライアンスへの対応

トッパンコンテナー埼玉工場では、環境に関する法令・条例などを遵守することはもとより、自主管理基準値を設けて、管理することで環境汚染の防止に努めています。

#### 2010年度の遵守状況

2010年度の法規制値・自主管理基準値の遵守状況は、大気・水質・臭気・騒音のいずれも問題なく、自主基準値内であることを確認しております。

#### 緊急事態への対応

埼玉工場では日常的に行われる作業の中で、化学薬品の補給中の漏洩や廃棄物ドラム缶の転倒などの事故が発生した場合、水質・土壌汚染などの問題を引き起こすことになります。  
想定できるこのような事故を未然に防止するため、土嚢などを備えておくとともに、緊急事態を想定した訓練を毎年実施しております。

#### 消防・避難訓練

川口市消防本部のご指導のもとで消火訓練を実施



#### 緊急事態訓練

インキの河川流出を防止する土嚢積み訓練を実施



埼玉工場では自主的な防災・防火管理意識の向上を図っています。

川口市消防マスコット

#### 緊急事態訓練

消火器による初期消火・炭酸ガス消火装置作動訓練を実施



## 環境教育

トッパンコンテナーでは、日常業務の中で環境保全活動を行うことは重要であり、従業員ひとりひとりが環境問題を正しく理解し、高い意識を持つことが必要と考えております。

埼玉工場では、全従業員の環境教育や環境汚染の原因となる可能性を持つ作業に従事する者への専門教育・機械操作訓練・緊急事態対応訓練を実施しています。

公害防止管理者、エネルギー管理者、危険物保安監督者などを複数養成して、環境関連法令を遵守しています。

## 環境保全活動

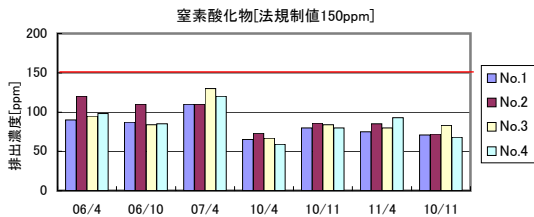
### 汚染防止と化学物質の管理

埼玉工場では事業活動を行う上で関係する法規制に対応するため、自主管理基準値・設備管理手順書・作業手順書を作成・運用し、エコガード推進委員会と凸版印刷エコロジーセンターで遵守状況を確認して、環境汚染の未然防止に努めています。

#### 大気汚染防止

##### ボイラー燃焼排気

2007年8月よりボイラー燃料を灯油から都市ガスに変更し、燃焼排気の測定分析値は大幅に改善されました。  
川口市の検査結果において、ばい煙発生施設(大気汚染防止法)は適合を受けています。



##### VOC排ガス濃度と大気排出量

2006年にVOC排ガス処理設備を導入し、光化学スモッグの原因物質となる揮発性有機化合物(VOC)を燃焼させて排出規制に対応しています。  
川口市の検査結果で揮発性有機化合物排出施設(大気汚染防止法)と指定炭化水素類発生施設(埼玉県生活環境保全条例)も適合を受けています。



VOC排ガス燃焼装置

#### 化学物質管理

埼玉工場では、工場で使用する化学物質についても購入から排出・廃棄までの全ての工程での適正管理と削減に努めています。  
グラフィインキや溶剤の水性化や芳香族系有機溶剤未含有の推進で、キシレンの使用はなくなり、トルエンの使用も、2001年度の使用量から見ると1/3000以下になっています。

#### 騒音防止

埼玉工場では敷地境界線15ヶ所の騒音測定を行い、状況の確認をおこなっています。  
この測定結果から騒音の防止や対策に努めています。  
集塵機等の更新を行うなど騒音防止・対策をとっています。



#### 振動防止

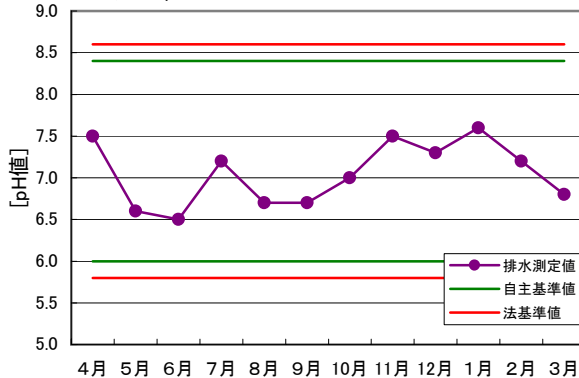
騒音測定と同じ敷地境界線15ヶ所で振動測定を行って、振動の状況を確認しています。  
測定結果では逸脱した値はありませんでした。

#### 排水汚染防止

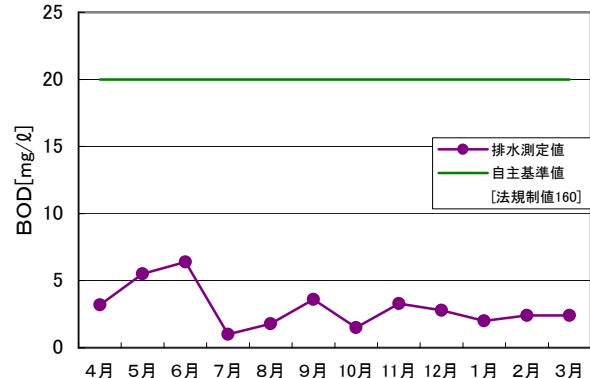
埼玉工場からの排水は排水処理設備を通して、毛長川に放流しています。  
排水処理設備の日常点検と放流水の測定(10項目)を毎月実施して、法規制値より厳しい自主基準値内であるよう放流水の水質を管理しています。

##### 23年度 排水分析結果

###### 水素イオン濃度 [pH]



###### 生物化学的酸素要求量 [BOD]



## 環境保全活動

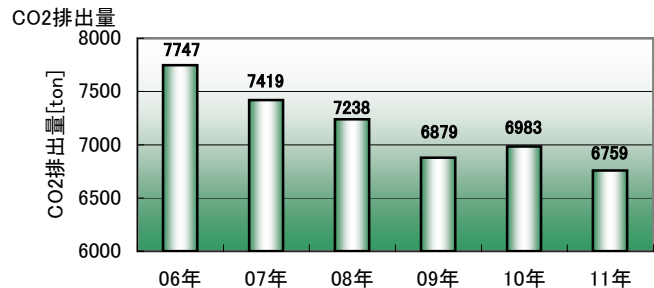
### 地球温暖化防止と省エネルギー

埼玉工場では二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)をはじめとする温室効果ガスの排出抑制のために、省エネルギー活動に取り組んでいます。

生産量増加や新規生産設備・環境保全設備・付帯設備導入によりエネルギー消費量は増加傾向にありますが、ボイラー及びVOC排ガス燃焼設備の燃料をCO<sub>2</sub>排出の少ない都市ガスに転換したり、一部の照明をLED化するなどの対策を実施することによりCO<sub>2</sub>排出の削減に努めています。

#### 省エネルギーへの取り組み

2011年度は2009年に導入した電力消費量監視システムで各設備のエネルギー使用状況を監視して、無駄を無くす活動を推進しました。特に、電力使用制限の期間は制限値に近づくと空調機の電源を自動的に遮断するなどして電気の使用を制限しました。2012年度夏季も2011年度と同様に電力の使用制限を実施して、省エネルギーに取り組んでいます。



物流棟では一日中点灯している照明用水銀灯を消費電力の少ないLED照明に71基を変更して、消費電力の削減に努めています。

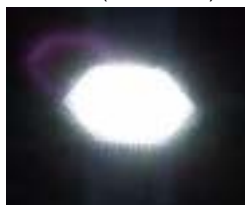
倉庫内のLED照明



水銀灯照明(250W/基)



LED照明(140W/基)



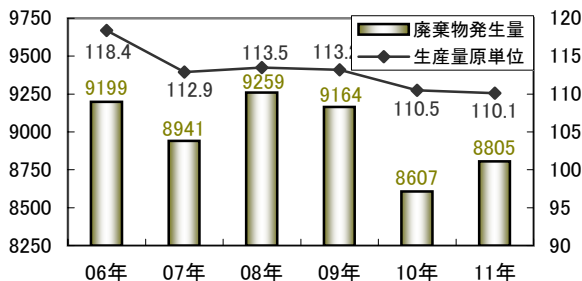
夏期恒例の事務棟ロビー窓に緑のカーテン(ゴーヤ)を実施、ロビーの空調機器の使用を控えています。

### 廃棄物の削減とリサイクル

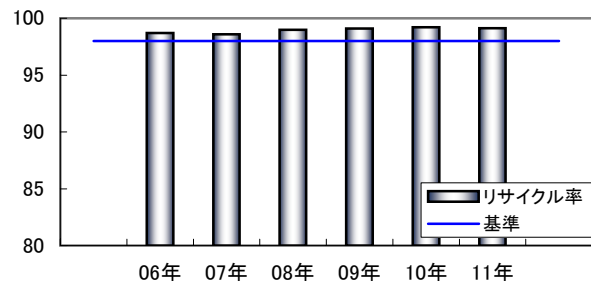
埼玉工場では限りある資源を大切に使うため、生産工程で発生する廃棄物の削減と廃棄物を再資源にする有効利用に取り組んで、可能な限りの廃棄物総量削減と循環利用に努めています。

埼玉工場の全部門がロス削減に向けて、目標を前年以下の廃棄物物量として削減活動に取り組みました。その結果、2011年度は前年より廃棄物発生量は約200tonの増加になってしまいましたが、生産量原単位は減らすことができました。

廃棄物総量と廃棄生産量原単位



廃棄物のリサイクル率



トッパングループは2001年にゼロエミッション事業所認定制度をスタートさせ、再生・再資源化率向上を目指しています。

認定の基準にはリサイクル率98%以上が認定の条件となっています。

埼玉工場は2007年度にゼロエミッション認定事業所として認定を受け、5年連続で認定基準を満たしています。

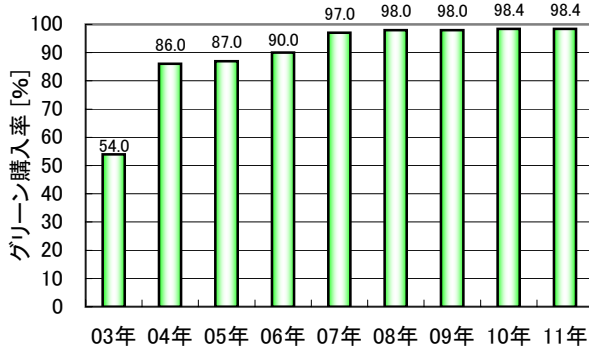


## 環境保全活動

### オフィスエコガード活動

埼玉工場では温暖化対策の重要性を認識し、全てのパソコン、空調、照明等の節電に取り組んでいます。資源の循環利用も重要な課題として、グリーン購入の拡大・コピー用紙の使用量削減・ゴミ(事業系一般廃棄物)の分別徹底などのエコガード活動を推進しています。

グリーン購入

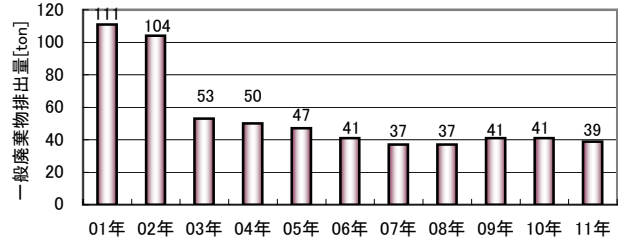


グリーン購入基準	
対象製品	購入基準
OA用紙	古紙配合率が70%以上であり、白度が80%以下であること
コピー機・プリンタ	一定時間以上使用しないと自動的に低電力モードやオフモードに移行する機能が充実していること
パソコン	一定時間以上使用しないと自動的に低電力モードやオフモードに移行する機能をゆうしており、低電力モードでの消費電力が小さいこと
トイレトーパー	原料が古紙100%であり、白度が80%以下であること
文具・事務用品	エコマーク、グリーンマーク等環境配慮型マーク認定の商品であること

2011年度の一般廃棄物量は4.1 tonと、前年と同じ排出量でした。事務所・工場内にリサイクルステーションを設けて、12種類のゴミに大別して収集を行い、再利用・再資源化をしやすいようにしています。

分類	新聞・雑誌	OA用紙
	段ボール	書類(シュレッター)
	ペットボトル	空き缶
	プラスチック	乾電池
	コピー用紙	空き瓶
	封筒	可燃物

事業系一般廃棄物



### 生物多様性保全

生物多様性は人類を含めた全ての生き物の生存基盤で、水や空気と同じ様に無くてはならないものです。生物多様性の損失は急激的に進んでおり、地球温暖化と同様に重要な環境問題になっています。埼玉工場では食物連鎖などの動植物のつながりなどの生物多様性の大切さを認識して、保全の行動につなげています。お客様へ納入する製品に影響が無い限り、農薬・殺虫剤の使用を抑えて生物多様性の保全に努めています。

毛長川にサギ(小魚狙って飛来)



工場内の芝生にモンシロ蝶



毛長川にアカミミガメ(幼体ミドリガメ)



工場内の芝生にセグロセキレイ



毛長川にマガモ



工場西側の桜並木



## コミュニケーション

### 社会・人とのコミュニケーション

- ◆ 埼玉工場 環境報告会  
近隣の方々に埼玉工場の環境関連の報告実施しました。



- ◆ 埼玉工場見学会  
環境報告会の後に埼玉工場を見学して頂き、工場内の生産・環境設備などをご案内しました。



- ◆ 埼玉工場ビール祭り  
工場見学して頂いた後、ビール祭りにも参加して頂きました。



- ◆ 清掃活動  
工場周辺の清掃を定期的に行っております。  
旧鳩ヶ谷市の「クリーンまちづくり運動」に総務部門が主体となって参加し、「はとピカパートナー」として工場周辺の清掃をおこないました。



今回、9回目の「環境報告書」発行となりますが、内容や表現には改善すべき点が多々あると考えております。皆さまのご意見・ご感想をお聞かせ頂き、今後の「環境報告書」の作成に役立たせていただきたいと思います。

**TOPPAN**